



# 週報

2015～2016 年度 RI 会長 K.R. ラビンドラン  
RI のテーマ 『世界へのプレゼントになろう』  
第 2570 地区 ガバナー 高柳 育行

国際ロータリー  
第 2570 地区

## 狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕 狭山東武サロン〒350-1305 狭山市入間川 3-6-14 TEL 04-2954-2511  
〔事務所〕 〒350-1305 狭山市入間川 1-24-48 TEL 04-2952-2277 FAX 04-2952-2366  
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@pl.s-cat.ne.jp  
会長 江原伸夫 会長エレクト 佐藤圭司 副会長 浜野貴子 幹事 小島美恵子

〔第 3 グループ内の例会日〕 新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)  
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

### 第 1057 回( 10 月 6 日)例会の記録

点 鐘 江原伸夫会長  
合 唱 国歌斉唱 奉仕の理想  
第 2 副 SAA 高田君 田中(隆)君  
卓話講師 鈴木ひとみ様

#### ※出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
36名	31名	85.71%	85.29%

#### 会長の時間

江原会長



先月出かけた先でウグイスがさえずっているのを耳にしたときに、そういえば、以前からなんとなく気になっていることがあったな、ということをお話いたします。

それは妻の実家でのことです。両親の様子伺いを兼ねて年に数回訪れておりますが、田舎なので周りの様子は結婚当初とさほど変わらず、当たり前だったことの 하나가、何年か前から急に気になり始め、2～3年前のある日義兄たち兄弟と両親にそのことについて聞いたことがありました。それはウグイスの鳴く時期と鳴き方でした。なぜならば、いつ訪れた時でも鳴き声を耳にしますし、鳴き方もその時々によって違っているのです。

答えは一言でした。「ここに住み着いているらしく、一年中鳴いているので鳴き方の変化や鳴く時

期を気にしたことがない」とのことでした。私もそのときは「そんなものか」と思っていました。先月のその時に思ったことは「梅にウグイス」という取り合わせを見聞きすることもあり、生態等について知りたいと思い、調べてみました。

調べたことを正確に皆様の前でお話しするには、私の吸収及び消化能力が追い付かなかったので、時期とか鳴き方とか気になっていたことや、面白いなと思ったことをお話しさせていただきます。

【形態】体長はオスが16cm、メスが14cmで、スズメとほぼ同じ大きさ。翼開長はオスが21cm、メスが18cm。体色は背中がオリーブ褐色で、腹面は白色、雌雄同色。卵の直径は1.8センチ、ホトトギスの卵の直径は2.2cmで、色もほぼ同じで、ホトトギスの托卵対象となる。

【生態】食性は雑食だが、夏場は主に小型の昆虫・幼虫・クモ類などを捕食し、冬場は植物の種子や木の実なども食べる。繁殖期は夏場で、オスは縄張りをつくり「ホーホケキョ」と1日に1000回ほど鳴くことがある。横穴式の壺型の巣をつくり、4～6個の卵を産みメスが雛を育てる。

※亜種のハシナガウグイス(小笠原諸島・硫黄島列島・伊豆諸島鳥島に生息する固有亜種)は、2～3個の卵を産み、オスも雛への給餌を行う。特徴はとにかく人懐こく人の存在など目に入らないほどすぐ近くで、手の届くようなところまで寄ってくるそうです。体調10～12cmで、オスがメスより大きいですが、亜種のウグイスよりも小さく、クチバシは名前の通り、細くて長い。

【鳴き声】さえずりは「ホーホケキョ、ホーホケキョ、ケキョケキョケヨ・・・」、地鳴きは「チャッチャツ」。さえずるのは縄張り内を見張っているオスで、「ホーホケキョ」が他の鳥に対する縄張り宣言であり、巣にエサを運ぶメスに対する「縄張り内に危険なし」の合図でもある。「ケキョケキョケキョ」が侵入した者や外敵への威嚇であるとされており、これを合図に、メスは自身の安全のためと、外敵に巣の位置を知られないようにするためにエサの運搬を中断して身をひそめる。平地にて鳴き始める季節が早春であることから春告鳥の別名がある。本州中部あたりでは2月初旬頃からさえずり始め、8月下旬頃までがよく聞かれる時期だが、10月頃まで弱しさえずりが聞かれることがある。「ホーホケキョ」とさえずるのを初めて聞いた日を『ウグイスの初鳴日』と呼び、気象庁が生物季節観測に用いている。ウグイスは漂鳥と言って繁殖期には山間部や里山に居たりしますが、冬季気温が下がってくると市街地に漂行するようになる。ウグイスのあのさえずりは繁殖期のみであり、冬季は鳴きを潜め、「チャッチャツ」という地鳴きのみになる。

※渡り鳥との違いは、渡り鳥がシベリアから日本、というように日本国外から日本へ比較的長距離を移動するのに対して、漂鳥の場合は産地から平地に移動するなど日本国内を比較的近距离を移動するのみである。

※寿命は平均で7～8年と言われている。(野生の場合はその半分位と言われている) 小鳥にとって住みやすいところは決まっているため、環境に変化がなければ代替わりしても住み続けると思われる。

※ウグイスとメジロは混同されやすい。「梅にウグイス」という取り合わせが花札をはじめ、よく見かけられるが、実際には梅の蜜を吸いに来るのはメジロであり、藪の中で虫を食べるウグイスはそのような姿で見かけられることは少ない。

※ハワイ諸島で野生化したウグイスは、約80年前に日本から複数回にわたって持ち込まれたという記録があり、この間、競争のない環境にいたせいか、短期間で「ホーホピツ」など単純なさえずりに変化してしまったという。日本のウグイスは季

節ごとに移動して、毎年繁殖地で縄張り争いをするのに対し、ハワイなど島では移動せずに、一年中同じ場所にとどまって生息していることから、競争が穏やかでさえずりが単純化すると推測されている。

時間の関係もありこれで終わりますが、当クラブの皆様も、ハワイのウグイスではなく、常に日本のウグイスでいていただきたいと思っています。

## 幹事報告

### 小島幹事

1. 地区ガバナーより、10/24「世界ポリオデー」に併せてポリオ撲滅に対するチャリティーゴルフ・コンペにさせていただきます、とご理解ご協力を頂きたいとのご連絡について。
2. 2018-2019 年度ガバナー推薦の指名委員会の委員の報告について。
3. 青少年奉仕部門委員会より 青少年交換、派遣候補生・来日学生に向けた「第3回来日学生オリエンテーション」公開開催のご案内について。  
10月18日(日) 登録 13:30 国立女性教育会館
4. 地区より 月信表紙の掲載写真依頼のお願い。
5. 2014-2015 年度地区会計報告について。
6. 平成 27 年度赤い羽根共同募金運動ご協力のご願いについて。
7. ロータリーコーディネーターニュース 11月号
8. 例会臨時変更 入間南 RC
9. 受贈会報 所沢 RC 所沢中央 RC 所沢西 RC
10. 難民を助ける会 AAR ニュース 10月号

## 「外来卓話」・・・・・・・・

### 講師紹介

### 守屋昭夫会員

本日の卓話講師としてお招きいたしております、鈴木ひとみさんをご紹介させていただきます。ひとみさんは私の甥の家内でございます。本も出ていたりするものですから、かなり前から一度卓話をして頂きたいと思っておりました。しかしご覧の通り車椅子で場所的な制約があるものですから、無理かと思いい機会を伺っておりました。

ひとみさんは、幹事小島美恵子会員（ミス・インターナショナル日本代表）の後輩でもあります。

ひとみさんの経歴は、下記に述べました通りです。

本日のテーマですが、ご本人の希望で、「車椅子からの出発」（たびだち）ということでございます。皆様最後までごゆっくりご静聴頂きたいと思いません。

## ■プロフィール

- ・1962年 大阪府生まれ
- ・1980年「ミス・インターナショナル日本大会」において、82年度ミス・インターナショナル準日本代表に選出され、同年モロッコで行われた「ミス・ネーション世界大会」に出場し、ミス・エレガンスに選出される。
- ・1983年 上京後、ファッションモデルとして活躍。また、TBS「世界まるごと HOW マッチ」のアシスタントとしても活躍する。
- ・1984年 交通事故に遭い頸椎を骨折し、車椅子生活を余儀なくされる。
- ・1985年 身障国体（鳥取）に出場し2種目（スラローム・60m）に大会新記録で見事優勝する。
- ・1987年「国際競技大会（車椅子競技の世界大会）で金メダルを獲得する。
- ・2002年 世界射撃選手権にライフル競技で出場。
- ・2004年 アテネパラリンピックに射撃の日本代表選手として出場。
- ・2011年より、NHK 障害福祉賞、審査員。  
現在は、執筆・講演活動の他洋服メーカーのモデルとアドバイザー、企業のバリアフリーコンサルタントを行っている。

## ：主なマスコミ活動：

NTV「スーパーテレビ」で『車椅子の花嫁の15年』として放送される他、「徹子の部屋」「クイズ\$ミリオネア」「ザ・ベストハウス1.2.3」「アンビリバボー」「笑ってこらえて」等テレビ番組に出演

## ：著書：

『命をくれたキス』（小学館）日本の他、中国、韓国でも翻訳されている。

『一年遅れのウェディングベル』

『気分は愛のスピードランナー』

## 鈴木ひとみ様

## 『車椅子からの出発』（たびだち）



こんにちは。

今日はお招き下さいましてありがとうございます。皆様にとって大事な時間を頂戴致しましたので、意義のあるものにできるように努力を致します。宜しくお願い致します。

私はこの車椅子の生活が31年となります。もう怪我をしてからの方が長く、自分でも驚いております。

よく「いつ障害を受け入れたのか」という質問を受けるのですが、答えられません。皆様は如何でしょうか。何か辛い出来事があったとき、しばらくしますと慣れたような、受け入れたような気持ちになります。しかし何かのきっかけでまたその時に戻されます。楽しいことがあったから、翌日から頑張れるのかというと、そうはいきません。そんなに強くありません。しかしいつまでも30年前の精神状態を引きずっているわけではありません。もちろん強くなります。

強いて言うならば怪我をして5年、これでもやっていけるかなと思えるようになりました。しかしそのような時に邪魔がはいるのです。恐らく皆様は経験されたことは無いと思うのですが、車椅子で道をこいでいますと、全く知らない男性が私の胸元に1,000円札をねじ込んできました。これには驚きました。また全く知らないお婆さんが私の顔を見て泣き出す、またタクシーの運転手さんが舌打ちをして乗車拒否をする、何とかやって行けるかと思った時にこのようなことがありますと、悲しくなります。もちろん人前では泣きません。

ですから、3歩進んで2歩下がる、という感じで少しずつ受け入れてきました。悲観的にはいつでもなれるのですが、しかし楽観的であるには意志が必要だとつくづく思い、意識的に楽観的であるようにしております。しかしいつも上手くいくわけではありません。

事故にあった経緯をお話させていただきます。

ちょうど20歳の頃、大阪で銀行員をしておりました。その時にミスインターナショナルの準ミスに選ばれ、1年間はその任期を務め、しかしその間も銀行には勤めておりました。今の夫と知り合ったのは、ちょうどミスインターナショナルの時でした。ミスインターナショナルというものに10社程企業がついておまして、そのうちの1社が富士フィルムという会社で、夫はそこに勤めておりました。その富士フィルム主催の撮影会にモデルとして呼ばれて、ちょうど私の担当が夫でした。

1年の任期が終わった後はしばらく銀行に勤め、その後退職し、上京してファッションモデルをしておりました。モデルになって1年半、企業のコマーシャルや海外ロケ等、大きな仕事もコンスタントにこなすようになっておりました。ちょうど事故に遭った日も、カタログの撮影で山梨県の甲府に出かけておりました。

事故に遭った日は8月2日でした。とても暑い夏の一日で、桃園で脚立のカタログを撮っておりました。脚立ですので、私が脚立に登ってその上の桃を取るという写真です。そのため下から撮ったのですが、丈夫な脚立というのが売りで、それが私が歩いていた最後の日の写真となりました。

撮影は無事に終わり東京に戻ろうという時に、カメラマンが運転をして、助手席に男性のデザイナー、私は後部座席で居眠りをしておりました。中央高速道路を大月から入り、10分程経った頃です。先ほどまであんなに晴れていたのに、急に曇り出して雨になりました。私たちの乗っていた車は、横を走っていたトラックと接触事故を起こしそうになったのです。慌てたカメラマンは、高速道路でありながら急ブレーキを踏みました。車は横滑りをし、トラックにぶつかり、車が回り始めて、その回っているときに助手席のドアが開き、助手席に乗っていたデザイナーは外に放り出され、高速道路

のアスファルトに全身を叩きつけられ亡くなりました。私は車の後ろの窓ガラスを突き破って、100m程飛ばされ、路肩の上に落ちました。たまたま落ちた場所が土の上だったので、命は取り留めましたが、その時に首の骨を折りました。

どういうわけか救急車が40分来ませんでした。そういう時は体を動かしてはいけないということが原則です。ましてや、首の骨が折れているかもわからない状態です。しかしその私を、運転していた人が抱き上げたのです。それで高速道路を走ってくる車に手を挙げ、知らない車が止まり、そこに私を入れて、誰かが救急病院に運んだのです。もしその時に体を動かしていなければ、首の神経は切れていなかったかもわかりません。

大月の救急病院に運ばれました。そこでは手に負えず、今度は救急病院の救急車で東京の専門病院、武蔵村山の国立の病院に運ばれました。

病院に着くと看護師さんが玄関で待機していて、すぐに手術室に運ばれました。首を折ったわけですから、できるだけ早く首の骨をつながなければなりません。お医者さんや看護師さんがストレッチャーを押していく、もちろん覚えてはおりませんが、しかし手術室の前に着いた時に少し止まりました。その時、当時恋人でしたその彼が、私にキスをしたのです。目を開けようと思いましたが、どうしても目が開かない、ただ人間の体温、唇から温かさが、動かない体にずっと伝わってくるようで、生きろと言っているのだと思いました。そこでまた意識を無くしました。

次に意識を取り戻したのは手術中でした。なぜ手術中に意識を取り戻したかと言いますと、手術の時に全身麻酔をしていなかったからです。事故で頭も強く打っておりましたので、全身麻酔をするのが危険で、首だけの局部麻酔で首の後ろを縦に12~13cm切って、そこから折れた首の骨を真っ直ぐに矯正する手術を受けていました。首には麻酔がかかっておりますので、もちろん痛みはありません。しかし意識ははっきりしています。先生の話すこと、メスのカチャカチャする音ははっきりとわかりました。これは今でも忘れられない事なのですが、手術の最後に首の骨を固定するために、頭から牽引というものを致します。頭蓋骨に左右2

カ所、電気ドリルのようなもので穴を開けていくのですが、頭に麻酔はかかっておりませんので、ギリギリという音と同時に激しい痛みが襲ってきて、また意識を無くしました。

手術の後、病室のベッドの上に戻された私は、自分がどのような怪我をしたのか、全く理解できませんでした。牽引で頭から5kgの重りを吊り下げ、顔の両脇に砂袋を積み上げ、首が折れたわけですから勿論首を動かすことができず、寝返りをうつこともできない、下半身はピクリとも動きませんでした。病室のベッドの上で、ただ天井だけを見続ける毎日でした。いろいろな人が病室にお見舞いに来てくれましたが、皆「必ず良くなるから」と慰めてくれました。その言葉で反って私は、これはただ事ではないと思い、また一方で、これは怪我なのだから必ず良くなるのだらうと漠然と考えておりました。

2週間後、そんな思いは木端微塵に打ち砕かれました。主治医が病室に来て、「ひとみちゃん、多分君の足は動かないだろう。今の医学では折れた首の骨を矯正することはできても、その中を通っている神経を繋いで直すことはできない。君は若いんだから、気を強く持って生きて下さい。」と告げました。先生の話聞いた時、驚く、嘆くといった感情は一切起こりませんでした。ただ信じられず、自分の事としては受け止められませんでした。しかし現実には、自分で身動きができない、枕の横に置かれたティッシュBOXからティッシュペーパーを引っ張る指の力がありませんでした。

日が経つにつれて、その現実から目を背けることができなくなってきたのです。冷静でなかったのだと思いますが、一つの事を考えるようになりました。こんな体で生きていても仕方がない、リハビリに出て、本当に足が動かないことを見届けたら死のう、そのように思い、毎日を過ごすようになりました。

ちょうど事故から2ヶ月後、病院の中のリハビリテーションに参加するようになりました。そこは私の想像していたものとは全く違った世界でした。動かない足に対しては何もしないのです。動く部分、つまり腕をどれだけ鍛えるか、そのみのリハビリでした。時間がくるとまた機械的に病室の

ベッドの上に戻される、まるで人形のように扱われているようで、自分の人間性そのものを否定されているようで、とてもやりきれませんでした。一瞬の交通事故が私から奪っていったものは、あまりにも大きいとその時思いました。

そしていろいろと解決しなければならない問題がでてきました。一番大きかったのが、これは本当に私事で、こうした場に相応しくないかもしれませんが、運転していたカメラマンやモデル事務所との補償問題でした。モデルというものは、モデル事務所から仕事を斡旋されますが、社員ではありませんので、例え工作中的の事故であっても労災や補償を受けることはできません。運転していたカメラマンも、実は自動車の任意保険に入っておりませんでした。彼自身保険以外で払う能力はありませんでした。

そのカメラマンとの補償交渉のため、夫が何人かの弁護士を訪ねましたが、皆引き受けたがりませんでした。弁護士は皆一様に、「大変お気の毒ですが、これは最悪のケースです。ない所からは恐らく取れないでしょう。」と言ったそうです。事故に遭ってしまったそのこと自体諦めのつく事ではありませんでした。本来得られるべき補償が得られないという現実、事故のショックをさらに何十倍にも加速させます。そんな絶望的な状況の中で、彼がどれほど支えになったか分かりません。その当時はまだ結婚をしておりませんでしたので、私の存在が彼にとって大きな負担になっているのではないだろうかと思いました。しかしその事について自分の口から話す事はできませんでした。それである時手紙を書いたのです。2日後、返事の手紙が来ました。本当にその一行が私を支えてくれ、今も支えてくれています。それは「とりあえず5年、いや3年でもいいから頑張ってみよう。もしそれでも頑張れなければ、生きることに疲れたら、その時は一緒に死ねばいい。」というものです。

病室のベッドの中で、何度も繰り返し、この手紙を読みました。私のために泣いてくれる人がいる、その人が一緒に生きようと言っている、たとえ結婚できなくても、私はこれで生きていけると考えるようになりました。とにかくできるところまでやってみて、その時点で将来のこと、先の事を考え

れば良いのではないかと考えられるようになりました。それからずっとリハビリをし、1年7ヶ月入院をしました。22歳で入院をし、24歳になっていました。

スポーツに関しては、事故や病気で障害を持つてから始めますので皆割と年齢が高いのですが、そういう意味では22歳というのは若く、また私身長が175cmと高かったため、まずは陸上、鳥取に出て優勝し、イギリスの大会でも優勝致しました。実はこれは裏話をしますと、手が長いのです。手が長いと一漕ぎが長く有利なのです。

今は陸上はやっておりません。これは一般の陸上と同じで、年齢にピークがあるのです。手が長いだけではダメなのです。今行っているのは射撃で、これは年齢が高いのです。じっと一点を狙うもので、胃が痛くなります。そして10mの射撃場、室内ですが、埼玉には長瀬にしかありません。

2020年東京オリンピックと決まった時に、雑誌をご覧になった方はおられますか。今からでも間に合う、オリンピック種目というものが3つありまして、その中の一つに射撃がありました。ご存知かどうか、オリンピックに出て金メダルをとった日本人最年長というのが、48歳射撃・蒲池さんです。世界的にも金メダルの最年長というのは、乗馬の次に射撃です。77歳で金メダルをとっています。そしてその77歳で金メダルをとった人が4年後81歳でも出場しており、銀メダルをとっています。皆様もいかがでしょうか。

これはもちろん国からの派遣ですので、費用も国からでるのですが、しかしどのスポーツもそうなのですが、国の枠というものを取らなければ出場できません。ある決まった大会に出て上位を取る、射撃の場合、日本ではマイナーですので国際大会を行いません。大体軍隊があるようなところ、韓国やヨーロッパに行きまして上位の成績をとること、しかしそれを私が取ってきても、私が出られるわけではなく、日本人がでられるのです。遠征費用も結構かかるのですが全て自費で、ついて行ってもらうのに仕事を休んでもらっていますので、コーチの分も選手で出します。

最近は障害者でも仕事を持っている人が増えたので、遠征費用は出せるのです。しかしどうし

てもリストラの対象になりやすいので、仕事を休めません。ではそうした人が射撃を止めるのかと言いますと、国内で頑張っております。「僕は出られないけれども、ひとみちゃん頑張ってるね」と言われると、私はいい加減な試合はできません。

遠征費用にしようと思って、クイズミリオネアに出ました。1千万円にチャレンジしませんかと、テレビ局から電話がかかってきたのです。人気のある番組でしたので、いくらでも出る人がいるだろうと聞きましたら、一般に募集をすると借金のある人ばかりになるそうです。そのため探しているとの事でした。10問正解すると100万円なのですが、私は10問目で答えられませんでした。9問正解したので75万円かと思っていましたら、10万円でした。これはテレホン4人という人を用意しておかなければならないし、友達も応援に来てくれましたので、皆で晩御飯を食べて帰ったらなくなりました。

皆様正直に、どのように思われますか？オリンピックに出て金メダルをとったら幸せだと思うでしょう。しかしそうした幸せとは、長続きしないのです。持つと普通になるのです。例えば私は今まで本を3冊書きました。最初に1万部刷り、何を思ったのか、5万部売れたら幸せだと思いました。そうしましたら10万部売れたのです。すると今度は15万部売れたら幸せだと思うようになりました。欲張りなのです。

幸せとは手に入れるものではなく、気づくことだと思えます。今はこの時間、私と皆様が同じ時間を共有しています。私から皆様が見え、皆様から私が見えます。私の声が聞こえます。考える事、歩く事ができます。家族、友達がいます。こうした当たり前のことがどれだけ有り難い事か、それに気づく事が出来る人にだけ幸せが長続きするのだと思えます。

私の座右の銘なのですが、それは「100年経ったらみんな骨」です。非常に苦しかったのは事故の時ではありません。こうした車椅子でスポーツをやっている、若くもないのですが、こうした世界でもいじめがあるのです。障害者が障害者の足を引っ張ったり、女性が女性の足を引っ張る等、色々なことがありまして本当に苦しかったです。その時に

「100年経ったらみんな骨」という言葉を聞いて、少し楽になりました。嫌なことを言う人も、言われる人も、100年経ったら骨なのです。今は骨のまわりに肉がついていて、考えることもできます。ではこの瞬間、自分のために何ができるだろうか、人のために何ができるだろうかということを考えてみたいのです。

今、講演も多いのですが、仕事はアパレルメーカー、トンボ、学生服のジャージの開発をしたり、NHKで社員の方に福祉を教えたり、また企業が建物を建てる時にどういったことを配慮したらよいかというアドバイス、目の見えない人、耳の聞こえない人、色々な障害の人が、有事の時にどう避難したら良いのか、どういった手助けをしたら良いのかといったアドバイスをするといった仕事をしています。また今日は狭山ヶ丘から夫と来ましたが、阿佐ヶ谷からは一人で来て、また一人で帰ります。一人で車椅子で出歩いていますと、本当に色々なことがあります。

今日は時間が限られておりますので、もしまた次の機会があれば、ユニバーサルデザインの話や車椅子で出歩いた時の色々な話をしたいと思います。

昔ロータリーは女性があまりいらっしやいませんでしたが、以前より女性の人数が増えており驚いております。ここにいらっしやる女性の中で、私も含めて、恐らく腕の力は私が一番だと思います。しかし歩けません。ある部分では優れているけれども、ある部分では劣っています。どこからどこまでが障害者で、どこからどこまでが健常者かという線引きが出来ない、線引きをする必要もありません。しかし障害者と呼ばれるようになった人を見かける残念なことは、まるで世間の不幸を一身に背負ったかのように、いつまでも嘆き悲しんでいること、これほど悲しいことはありません。身体が不自由になってしまったがために、もしかすると元の職場には戻れないかもわからない、元のような生き方はできないかもわかりません。しかし残された身体の機能、それが頭だったり手だったり、人によっては足だったりというような残された身体によって、今までとは違ったことができる可能性もあります。

他人と比べるものでも、自分の前の生活と比べるものでもないと思います。自分の残された身体に期待をして、最大限の努力をし、社会に貢献すべきではないでしょうか。これは障害者だけではなく、ここにいらっしやる全ての人に課せられたことだと思います。人間の心は障害を持ったことによって、一生浮かび上がれなくなってしまうものではないと思います。むしろ障害以前よりもっと成長した生き方をしたいものです。

私の場合、自分が障害者となって、より一層生きる機会を余分に与えられたと考えております。色々生意気な事を申し上げましたが、私は車椅子になってからの人生の方が長くなりました。しかし障害以前よりも、もっと成長した生き方をしたいと思っており、いつも堂々と積極的に生きていきたいです。どうか皆様も、どうぞお元気で、そして積極的に生きていって下さい。

ありがとうございました。

著書：鈴木ひとみ



# ニコニコボックス

江原君 本日の卓話をお願いし快くご承諾頂きました鈴木ひとみ様、お忙しい中おいで下さいまして本当にありがとうございます。お話し楽しみにしております、何卒宜しくお願い申し上げます。

小島君 卓話の鈴木ひとみ様、お話し楽しみにしておりました。宜しくお願い致します。

お蔭様で小島モータース、50年を迎えることが出来ました、お客様に感謝です。

浜野君 鈴木ひとみ様、本日の卓話大変楽しみにしておりました。よろしく願い致します。

栗原(憲)君 「俳句文学館」の新聞に記事が載りましたので配布させて頂きました。

益子君 鈴木様ようこそいらっしゃいました。卓話楽しみにしています。宜しくお願いします。

松浦君 鈴木ひとみ様、本日は楽しみにしておりました。宜しくお願いします。

守屋君 国家表彰、叙勲しました。

佐藤君 爽やかな秋が来たという天気で気分爽快ですね。本日の外来卓話鈴木ひとみ様、ようこそ起こし下さいました。卓話楽しみにしております。宜しくお願い致します。

柴田君 鈴木ひとみ様、ようこそ私たちの例会に来ていただきありがとうございました。卓話を期待しております。

吉川君 しばらくお休みさせていただきます。

会員誕生祝 高田君

夫人誕生祝 野口君 園部君

結婚記念日 宮野君 守屋君 清水君 若松君

## ※次の例会

☆10月17日(土)  
地域交流フリーマーケットに振替  
雨天順延 10月18日(日)

☆10月20(火)  
12:30~13:30  
第2副SAA 吉川君 吉松君

国際ロータリー第2570地区  
ガバナー公式訪問  
ガバナー高柳育行様(本庄RC)

☆10月27日(火) 例会臨時変更  
↓  
地域交流フリーマーケットに振替  
により例会取り止め